

東京の文化財

旧浜離宮庭園

東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課

「東京の文化財」100号のあゆみ

「東京の文化財」は昭和54年6月30日に第1号を発行しました。今回発行の号で100号となります。足掛け27年かかって100号の大台に到達しました。そこで、今号は通常のページ構成ではなく、「東京の文化財」100号のあゆみ(本稿)と、建造物などの有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡や名勝などの記念物、などの各種の文化財について紹介する特集号としました。

「東京の文化財」は、B5判4ページ又は6ページのリーフレットスタイル、白黒印刷、年4回発行という内容でスタートしました。第1号の「後記」には、「今年度から「東京の文化財」を季刊で発行することになりました。これは、当文化課が毎年、その年の調査研究の成果をまとめた「文化財の保護」の専門誌に対し、わかりやすく文化財保護思想の普及をはかったものです。」と、発刊のねらいが書かれています。

各号の巻頭は特集記事でした。執筆者は文化財保護審議会委員の先生方など専門家の方でしたが、文化財をわかりやすく紹介しようとしている意図は伝わるものの、今読むとかならずしもやさしい内容とは言えなかったかもしれません。この他、埋蔵文化財の紹介や文化財講座などのシリーズが読み物として連載されました。

「東京の文化財」は平成6年度の第61号からA4判に変わりましたが、スタイルとしては第1号から全く変わっていませんでした。平成8年度の第69号以降、よりわかりやすくというねらいから特定の文化財に関する解説や、文化財修理の現場の状況を紹介する形に変わってきました。

そうして、平成9年度の第73号からはカラー刷

りへと変え、写真もふんだんに取り入れられるようになりました。カラーに変わったことで伝えられる情報が格段に増え、わかりやすく、親しみやすいものへなったと思われます。しかし、残念なことにカラー刷りの経費的な問題もあり、年4回の発行が、年3回へと減ることとなりました。巻頭は文化財の修理や時節に合わせた紹介を主体とした特集、区市町村の文化財をそれぞれの教育委員会の方に紹介してもらう「わがまちの文化財」、文化財を解説した「文化財・ア・ラカルト」、巻末のイベント等の情報のページというスタイルになりました。

平成10年からは東京の国・都指定文化財の公開を中心とした「東京文化財ウィーク」がスタートし、年3回の発行のうち1号は「文化財ウィーク」事業の紹介、2号は時節に合わせた特集、3号は新指定文化財の紹介というサイクルとなりました。

「東京の文化財」は、当初は『文化財の保護』を補完するような内容でスタートしましたが、第73号のカラー化以降、よりわかりやすく、文化財に関する情報を提供し解説するようになってきたと思っています。今号で100号という節目を向かえましたが、より情報発信としての役割を果たし、文化財を身近に感じただけのような内容を心がけていきたいと考えています。



「東京の文化財1号」